

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組 1】(A中学校)

◆おしゃべり相談(通年)

- ・職員室前におしゃべり相談ポストを設置した。校内別室の利用生徒が本取組を利用し、多くの先生と話をし、安心して在籍教室に入ることができた。

◆おしゃべりウィーク(夏季休業日明け)

- ・対象は全生徒とし、管理職、栄養士、学校生活支援員を含む教職員で対応しており、生徒と教員が1対1で話をし、生徒の様子を把握している。夏季休業日明けに実施することで、2学期のスタートに向け生徒の不安感を取り除くことができた。また、全教職員が自分に向き合ってくれるということを生徒が体感でき、上記のおしゃべり相談を気軽に利用できるようになった。



【取組 2】(B中学校)

◆生徒の主体性、行事の活性化、放課後や昼休みを上手に活用

- ・学校行事(体育祭や合唱コンクール等)は実行委員会を中心に進めている。実行委員会が積極的に声掛けをして、自分で考え、判断して行動できるようにしている。学年やクラスの仲間意識を高め、集団で取り組むことに苦手意識のある生徒が前向きに取り組むことができるようになった。全校練習後、実行委員会が考えた「全学年全生徒が円陣になってのかけ声」は生徒同士のきずなを育むものであった。
- ・生徒会(委員会)主体で、交流を目的に様々な楽しい活動を実施している。書評合戦、ドッジボール大会など、昼休みや放課後を上手に活用して企画・運営している。実施日には全校生徒が集まり、お互いに仲間を応援する姿に温かみを感じられる。

【取組 3】(C中学校)

数学の教え合い活動や英語の対話的な学習活動を通して、その教室にいる生徒全員が主体的に取り組み、学ぶ姿勢が前向きである。学習したことをお互いにサインして確認するなどの工夫により、お互いを認め合い、共に学び合う関係性が築かれている。さらに、生徒一人一人の「分かった」、「できた」につなげ、自己肯定感を高めている。お互いを尊重し、失敗を恐れず、安心して発言したり、自分らしさを表現したりできる環境づくりを進めている。

【取組 4】(C中学校)

不登校の現状や不登校への適切な対応などについて校内研修を実施した。特に、居場所づくりのポイントや、きずなづくりのポイントを中心に説明した。また、未然防止の取組や担任としての生徒への関わり方等についても、具体例を挙げながら説明した。さらに、巡回担当校に通信を配布して教職員の理解を深めた。

多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（D中学校）

校内委員会において、支援を必要とする生徒の情報共有と支援方法の検討を行い、関係機関や校内別室の利用につなげている。さらに、不登校支援の担当が他校の校内別室を参観するなど、他校の良さや自校でできることなど情報共有を行い、環境整備の充実を図っている。

アウトリーチによる支援（C中学校）

月に1回、担任、不登校対応巡回教員が家庭訪問及び面談を実施し、校内別室への登校につなげた。不登校対応巡回教員が週に1回、自宅に迎えに行き、登校支援を続けている。また、給食の喫食や他者との関わりの活動も参加できるようになった。さらにSSWと連携を図り、週に1回程度の面談等を継続する。

校内別室における支援（A中学校）

◆個別ブースの設置

- ・個別に学習スペースが区切られていることで、集中して取り組むことができる。
- ・見られたくない生徒にとって、安心して学習に取り組むことができる。



◆円卓のテーブル・ソファの設置

- ・コミュニケーションが取りやすい。
- ・ソファで落ち着くことができる。



デジタル機器を活用した支援（E中学校）

◆オンライン授業の取組

- ・一人1台端末を利用して、希望する生徒に授業をオンラインで配信しており、校内別室や自宅で授業の様子を確認できる。
- ・オンライン授業を視聴することで、当該生徒が授業の進捗を確認でき、学習を進める参考となっている。

関係機関との連携（全巡回担当校）

- ◆SC、SSW、教育支援センターとの連携
- ・校内委員会を経て、保護者に関係機関を紹介して支援につなげた。
- ・SCやSSWが校内委員会に参加して、情報共有を図っている。
- ・不登校対応巡回教員と連携し、担任と一緒に、面談や支援の相談に入っで対応している。

成果

校内別室での支援を充実させることで、不登校生徒が安心して登校できるようになった。学校内外との関係機関と密に連携を図ることで、校内別室への登校や教室復帰につなげることができた。

課題

社会的自立に向けて、保護者との共通理解の下、多様な生徒の状況に応じた支援を継続する必要がある。